八幡製鐵所再び罷業す

當局に誠意なしとして各組合氣脈を通じ一齊に工場を放棄して各所に集會

五百の煙突は又復煙を斷てり

不穩の氣全市に漲り爲に人心恟々

八幡製鐵所職工は又復二十三日夜より怠業を斷行し形勢頗る重大なるより齋藤福岡縣警察部長は小原福岡署長以下多數の警部巡査を引率して同地に急行し憲兵隊と協力して嚴重警戒中なり（福岡電話）

職工組合勞友會の幹部が檢擧せられて其の首腦者を失ひたると且つは官憲の鎭壓手段強かりし爲め一先づ鎭靜に歸したる八幡製鐵所にては又復二十四日午前六時に至り職工、人夫等を併せて約二萬五千人は一齊に業務を抛ち一同中央區なる權現山下の九軌發電所前廣場に集合し大示威運動を開始しつゝあり是れがため七十餘の各工場は閉鎖の姿となり五百有餘の煙筒より吐き出す濛々たる黒煙は忽ち斷絶せり八幡市民等は大恐慌を惹起しつゝあり（八幡電話）

長官の態度に

一同は憤慨せり

先づ機關部より罷業

各工場に宣傳す

上京したる勞友會、友愛會、福岡鑛務協會の代表者等は山本農相と會見したる後白仁長官にして其の責を負へば職工側は何とか妥協策を講ずるも不可ならずとなしたるが、而も白仁長官は動もすれば此等の代表者を愚弄するが如き態度に出でたるより二十二日交涉斷絶し各代表者は各會に其の旨を電報せり一萬六千有餘の職工等はこれにより前回の如き同盟罷業をなしたるものにて勞友會、友愛會にては種々協議の結果二十三日午後七時より相連結し右の顛末報告演說を勞友會本部及び同診療所の二箇所にて開催し一方各勞働者の意嚮を尋ねたるが何れも製鐵所當局者の誠意なきに憤慨し悲痛の叫びを發したり、斯くて同會にては引續き祕密幹事會を開きて協議する所ありたる結果遂に

滿場一致を以て

一、過般の罷業に對し製鐵所當局の採りたる態度は全然誠意なきものと認む

二、今後の對策に就ては如何なる壓迫ありとするも一致團結して其初志の貫徹に努む

三、今後如何なる犠牲者を出すもこれに屈せず相互相救助の實を擧ぐること

等を申合せ愈よ第二回の同盟罷業敢行の手段を採ることに決したるなりといへり、尚は一方各會員等は幹部會の祕密申合せを傳聞するや何れもこれに賛同し二十四日午前六時の出勤前に至り製鐵所構內の首腦部たる中央機關部を中心として一齊罷業を開始したるものなるが各工場へはそれより夫へと傳はり夜勤を終へて歸宿せんとする職工等も一同之れに和し作業服の儘各工場を巡回し悲痛なる演說を試み忽ちにして構內七十有餘の各工場の職工等は業務を拋げ棄て「ワツショ〳〵」と喊聲を擧げつゝ三々伍々隊を組んで構外に出で各工場は遂に一時に運轉を中止し五百有餘の煙突は一時に煙を絶ちたり斯の如くにして八幡製鐵所は去る五日の同盟罷業の如く光景慘澹たる有樣を演ぜるが各工場より押寄せたる一萬數千の職工等は各門に殺到し之れを防がんとする守衛等と衝突して格鬪するものあり遂には門扉を破るもの職札入箱等を壞すものあり

喊聲を揚げて

市中を示威運動

當局の警戒手配こ狼狽

所からの吹雪をものともせず南門より出でたる職工は豐山公園に、北東門より出でたるものは中央區の權現山下の九軌發電所前大廣場に集合し各自悲痛なる當局攻擊演說を開始し形勢益不穩なるものあり尚は豐山公園に集合したる職工等は權現山下九軌發電所前に集合したる職工等と相合し午前十一時に至り二萬人內外の多數となり時々喊聲を擧げつゝあり又友愛會九州支部長藤岡文六氏は友愛會の旗を翻して此等職工の先頭に立ち八幡市內を練り步き大示威運動を試みつゝあり、之れがため八幡市中は大混雜に陷りたり、一方八幡製鐵所の當局者は餘りのことに狼狽なす所を知らず各局長等は鳩首協議中にして取敢ず管內の各警察署に此旨を打電し警戒を求め且つ小倉、門司、若松の各警察署よりは多數の警官を移さず現場に馳せつけ又小倉憲兵隊よりも多數の憲兵現場に驅けつけ目下嚴重警戒中なり（八幡電話）

ス機二臺出發

陸軍省着電　二十五日スヴア機二臺羅馬を出發したり（二月十日午後四時在羅馬仙波中佐發）

惡性に化す

殆ご暴動に近し

熔鑛爐は休風

市內は丸で戰場の如し

福岡縣廳に達したる情報によれば八幡製鐵所は二十四日早朝に至り又々不穩の形勢あり午前六時職工の交代に際し職工の一團五十餘名暴動團こなり中央機關場を始め各工場の作業中止を強要し其の數次第に增加し午前八時半には六百餘名に達し事務所を始め各方面に投石して窓硝子を破壞し演說を爲し午前十時頃より八幡市豐山公園に集合の目的を以て製鐵所外に出で鬨の聲を擧げながら練步き其の形勢頗る險惡にして益不穩の狀を呈せり製鐵所內の機關場は未だ破壞さるゝに至らざるも熔鑛爐は午前六時より休風の儘なり中央機關場の機關中約四十分作業を中止したるものあるも第二機關場は異狀なきが如し而して群集の職工の一團は午前十時九軌中央停留所と春野町停留所の中間製鐵所病院下に集合し鼻下に髭のある男は大聲を發して演說を爲し又他の一團は同所附近に於て九軌電車の窓硝子を破壞し益猛り立てんとするより八幡署を始め小倉若松署員驅けつけたる警官隊が之を中止せんとせるも聽ぜず小倉憲兵隊よりも憲兵出動し之が爲八幡市內は恰も戰場の如く大混亂を爲しつゝあり爲に製鐵所にては石炭の輸送を一時中止され度き旨門司鐵道管理局へ申出でたり（福岡電話）

白仁長官驚く

早速調べて見やう

八幡製鐵所事件再燃の報を齎して記者が議會政府委員室に白仁長官を訪へば甚だしく驚愕の色を浮べ「そんな電報は未だ接受して居ない、事實ならば大變なことである、併し假令騷ぎが再び起つたからと云つて曩に發表した回答を直に改めると云ふことは考へて居らぬ、何れにしても一刻も早く再業の狀況を調べて見ねばならぬ多分出張所の方へは何とか言つて來てるだらうから……」と急ぎ俥を驅り取る物も取り敢ず農商務省構內の製鐵所出張所へ向つた間もなく出て來て再び語る「此の前問題の起つた時私は職工代表者に朝夕のやうに會つた其の問題も略解決したので再び上京したやうな譯だが其の時にも職工側は今後は從來より一層勉強して働きますと言つた位だ此度の原因はどうしても判斷に苦む、尤も二三日前人夫として雇つてる朝鮮人の中で餘り怠けるものがあるから五十人ばかり首を馘つた自分は其の連中ぢやないかと思つてる、朝鮮人は今の所八百餘人居るから彼等が騷いでも可なりに大きくなると思はれる、併し先づそんなことは無いと自分は信じて居る、勿論此の前彼等が要求した種々の條件增給問題は直ぐ實行したのもあるし、豫算の通過を待つて四月一日からとしたのもある、時間問題は八幡ばかり彼等の要求に直ぐ應じる譯にも行かぬから政府工場の者が協議した上何れになりと決定しやうと云ふことになつて居る、彼等は之を諒として居たのだ、どう考

稍御良好

村雲尼公御容態

見舞客で大混雜

御重態なる京都瑞龍寺御住職村雲日榮尼公は日々中西博士の診察を受けて居られるが、御重態の報一度御同胞の許に達するや東伏見宮附高橋宮內事務官、閑院宮附松井宮內事務官は台命を奉じて入洛し尼公の御病床を御見舞申上げたるを初め在京の賀陽、久邇兩宮よりも御三御見舞ありて訪問客のため辻家從初め係員は忙殺せられて居る、辻家從の談によれば尼公今回の御病狀に就いては本日（二十四日）も中西博士の往診があつて其診斷によると頗る激なる膀胱血に尿毒性を併發せられたので、日頃は至つて御壯健であるのですが、殊に一昨二十二日は餘程お惡くれ意識不明で昏睡狀態が繼續せられ二十三日に至つて稍々御容態も宜しく御意識も明瞭となり、本日も餘程お宜しい樣に拜して居るがそれだこて中々安心は出來ません云々右の如く尼公の御容態は稍々良好なるにより在京中の松井、高橋兩事務官は二十四日夜一先づ歸東すべしと

株式後場手口

……たけに流石に手詰の……て多かりしも新規……

ざ內外信託新のみ更に四圓方安く大株は新四圓五十錢高、新五圓十錢高に打止めたり▲大株は橋本、乏大、總田の乘換へ瀧川、八田賣り商、石井の……

▲株式引跡氣配

乙部の離株は一向見るべき手口なかりき

●綿絲引跡氣配

みさなりて十七圓五十錢處の唱へなりき

▲直なる手口

月物六百五十七圓、七、八、九月物六百三十五六圓處を唱へ正午に比し五六圓高を示せり

……佐の……十五、前長……村二十五枚……秀八十、山田……▲五限（……）……

長……

二十四日午前……育課の屋根……つゝありし……業課の屋根……吐き出せし……課保安課詰……一同非常用……せしも折柄……消止むる能は……防夫全部……內に水を注……けるも建物……防意の如く……部長共に不在……一方ならず……戶町附近は……迫る有樣なり……むなく他に延……死に努力し午……風力減少せし……課の天井、屋……のみにて十二……勢の猛烈なり……室內に火の燃え……

消防自……

二十四日午前三……所村杉浦治方……の報を受け名古……防自動車を運轉……操縱し消防曹長……手豐島末吉（三……同乘即刻現場に……三分市內中區西……西詰中央線路切……恰も千種午前三……七百八十三號……

自棄に自家……

大阪府東成郡城北……工場の工場內倉庫……二十一日午前七時……

餘……

中……へても私に……はれない……所び拼發し……け本事務所……語つて曰く……くなる理言……を逞う……ずの甚……會提出の……置いた筈で……善後策……い臨急……方がない（八……